

平成 27 年度大台ヶ原自然再生推進委員会
森林生態系・ニホンジカ保護管理ワーキンググループ会合
議事概要

◆日時 平成 27 年 8 月 12 日（水） 現地調査 : 8:30 ~ 14:00
ミーティング : 14:00 ~ 16:00

◆場所 ミーティング : 大台ヶ原ビジターセンター

◆参加者

【委員】

井上 龍一 奈良教育大学附属小学校 教諭
川瀬 浩 (公財) 日本野鳥の会奈良支部 副支部長
佐久間 大輔 大阪市立自然史博物館 主任学芸員
高田 研一 高田森林緑地研究所 所長
高橋 裕史 (国研) 森林総合研究所関西支所
生物多様性研究グループ 主任研究員
日野 輝明 名城大学農学部 教授 (ミーティングのみ参加)
日比 伸子 橿原市昆虫館 統括調整員
松井 淳 奈良教育大学教育学部 教授
村上 興正 元京都大学理学研究科 講師
横田 岳人 龍谷大学理工学部 准教授
※ (国研) は「国立研究開発法人」を示す。

【オブザーバー】

(一財) 自然環境研究センター 千葉 かおり 主席研究員
荒木 良太 上席研究員
中田 靖彦 研究員

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所 秀田 智彦 所長
遠藤 誠 野生生物課長
川村 義治 生物多様性保全企画官
坂本 英利 自然環境整備課 課長補佐
鑪 雅哉 野生生物課 課長補佐
中山 良太 野生生物課 自然保護官
宮下 央章 野生生物課 係員
菅野 康祐 吉野自然保護官事務所 自然保護官
小川 遥 吉野自然保護官事務所 自然保護官補佐
(株) 環境総合テクノス 山内 昌之 環境部 マネジャー
樋口 香代 環境部 リーダー
城向 光弥 環境部

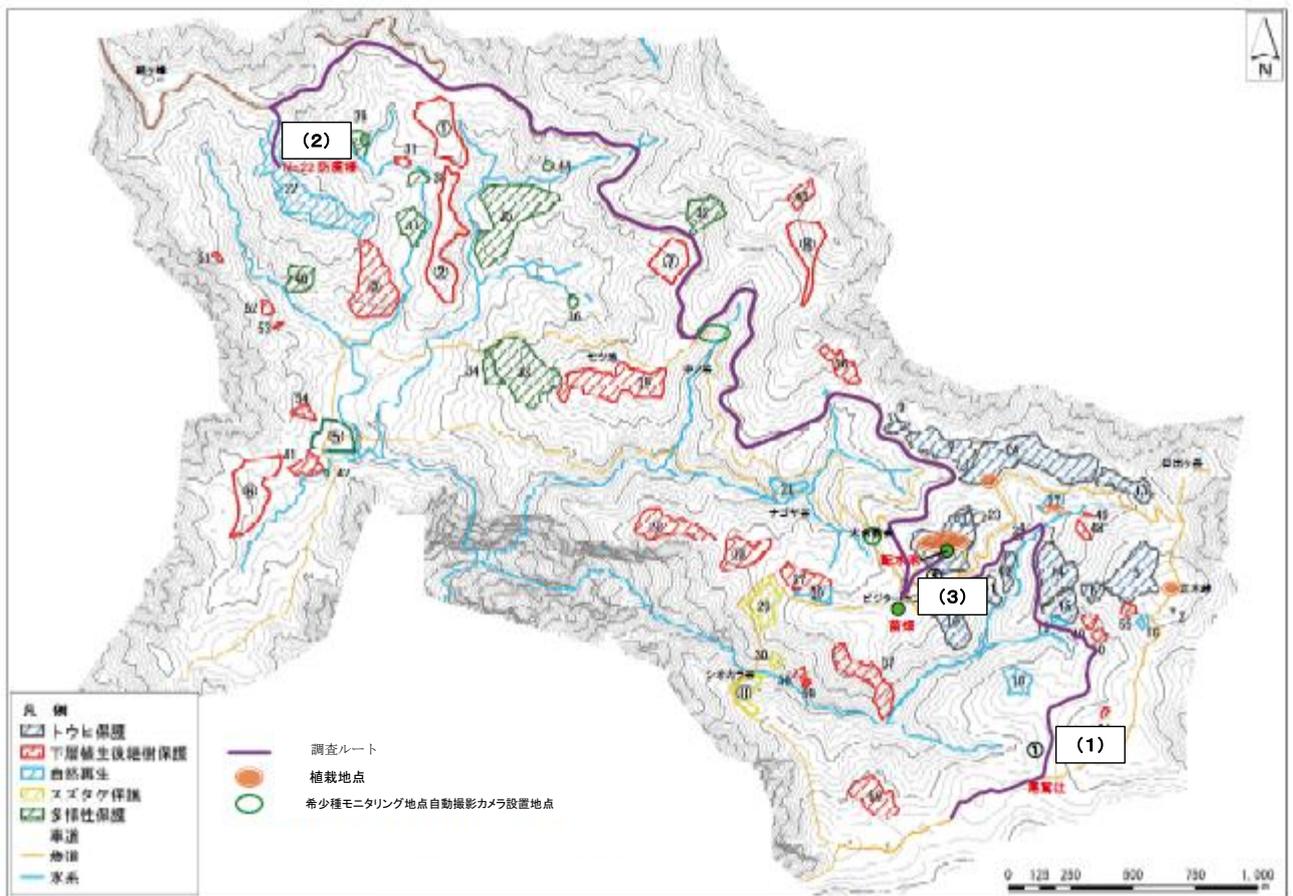
◆ワーキンググループの概要

今後の大台ヶ原自然再生事業の進め方や課題等について、委員から助言を得るため、参加者で現地調査を行った後、現地の状況を踏まえてミーティングを行った。

➤現地調査の概要

以下の内容について、委員に現地を確認していただくとともに、概況を説明した。

- (1) 尾鷲辻、牛石ヶ原において、ニホンジカ搬出処理方法の説明
- (2) 倒木により破損し、ニホンジカの侵入が確認された西大台ヶ原のNo. 22防鹿柵において、柵内の植生被害の確認と、7月に実施したニホンジカの捕獲作業の説明
- (3) 苗畑、配水池において、現存するトウヒ苗木と配水池の自生稚樹の確認



図：森林生態系・ニホンジカ保護管理 WG 現地調査ルート

➤ミーティングの議事

- ① ニホンジカ搬出処理方法について
- ② 苗畑のトウヒ苗木、配水池のトウヒ等自生稚樹の利用について
- ③ 平成 27 年度調査について
 - ・コマドリ調査について
 - ・訪花昆虫調査について
- ④ 平成 27 年度に追加で実施すべき調査項目について

⑤ 希少種盗採対策について

➤ミーティングの議事概要

(1) 森林生態系・ニホンジカ保護管理ワーキンググループの座長選出について

- 議事に先立ち、委員の中から互選により、松井委員が森林生態系・ニホンジカ保護管理ワーキンググループの座長として選出された。

(2) 議事について

議題の概要及び委員からの主な助言等は下記のとおり。

① ニホンジカ搬出処理方法について

ニホンジカの個体数調整を行うにあたり、現在、課題となっている捕獲個体の搬出方法を今年度検討するので、検討にあたっての助言を求めた。

- 搬出方法を検討する最初の段階で、搬出の困難度等に応じて緊急対策地区をいくつかのレベルにゾーニングすることが必要である。ニホンジカの季節移動のパターンや生息密度、出現頻度等を解析して、ニホンジカが居る場所で捕獲することを想定し、捕獲場所ごとに最適な搬出方法を検討してはどうか。
- 大台ヶ原駐車場～尾鷲辻までの、不整地運搬車の通行の安全上支障となっている箇所の整備は、景観にも配慮しつつ、必要最小限にとどめるべきである。ニホンジカの生息状況は変化するので、場所によっては土嚢など一時的な改良で対応可能だろう。
- 牛石ヶ原～尾鷲辻までの搬出について、搬出機具として一輪車、不整地運搬車、ソリ等が考えられる。特に、ササ地については、鉄板等の一時的架設を行う方法も考えられる。土木の改良よりも運搬機材の改良を検討した方が効果的な場合もあるのではないか。
- 埋設試験に伴うクマの誘引について、試験期間中のクマの出現の有無のみにより安全性を判断することはできない。埋設を続けるなら、モニタリングを継続することが必要である。
- 今後、生息密度の高い三重県側の国有林で捕獲した個体を奈良県側に搬出する等、関係機関が連携して効果的に捕獲が進められるのではないか。

② 苗畑のトウヒ苗木、配水池のトウヒ等自生稚樹の利用について

今後、自然再生事業ではトウヒの苗木移植はしない予定であり、現在の苗畑を今後どうしていくかを検討するため、助言を求めた。

また、奈良県が管理する配水池に自生するトウヒ稚樹について、今後の扱いを検討した。

- 苗畑の苗は今後、自然再生事業としては植栽しないことが決まっているが、比較的樹高の低い植栽可能な苗木については、ボランティア活動として移植する等の活用を検討してはどうか。
- 苗畑をどのような状態にして返却すればよいのか、土地所有者である奈良県との調整が必要である。
- 配水池のトウヒについては、伐採する必要があるもの、植栽などに利用できるもの、そのままにしておいてよいもの等の仕分けが必要である。
- 配水池のトウヒ稚樹についても、今後どのような状態にしていくのか、施設の管理者である

奈良県と調整が必要である。

③ 平成 27 年度調査について

平成 27 年度実施した調査について、結果を説明した。コマドリ調査に関連して、委員から、以下のような発言があった。

- (委員が独自に行った調査において) 今年度、シオカラ谷の 8 ヶ所でコマドリを確認している。また、西大台の防鹿柵 No21 付近では、あちこちで鳴き声を確認しており。間違いなく繁殖していると思う。

これが今年度からなのか、昨年度からそうだったのかはわからないが、大台ヶ原にコマドリが復活してきていると思う。

④ 平成 27 年度追加で実施すべき調査項目について

平成 27 年度、追加で実施する予定の調査について説明した。委員から、以下のような助言があった。

- 単年度ごとに調査内容を検討するのではなく、これまで実施してきた調査を整理したうえで、全体的な計画を立てる必要がある。

計画的に調査を実施することで、調査をスリム化し、限りある予算を有効に使うことができる。

⑤ 希少種盗採対策について

※希少種の保全対策にかかる情報が含まれるため、非公表とする。

⑥ その他

【倒木で破損した防鹿柵にニホンジカが侵入したことについて、委員からの助言】

定期的に防鹿柵の破損状況を点検するだけでなく、調査や入山者等が防鹿柵の破損を見つけた場合に、ビジターセンターへ連絡するような体制を作る等、防鹿柵の破損状態の把握や補修を早く実施するための工夫をするべき。

(文責：近畿地方環境事務所野生生物課 速報のため今後修正の可能性あり)